



2026年4月13日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ワ ー ル ド
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 執 行 役 員 鈴 木 信 輝
(コード番号：3612 東証プライム)
問 合 せ 先 取 締 役 副 社 長 執 行 役 員 中 林 恵 一
(TEL：03-6887-1300)

上場廃止となった子会社(株式会社ライトオン)に関する決算開示について

2026年3月1日をもって完全子会社化した、株式会社ライトオンに関する2026年8月期 第2四半期(中間期)決算短信(2025年9月1日から2026年2月28日まで)について、別紙の通りお知らせいたします。

以 上



2026年8月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2026年4月13日

会社名 株式会社ライトオン
コード番号 7445 URL <https://biz.right-on.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 大峯 伊索
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理本部長 (氏名) 木本 勇 TEL 029-858-0321
半期報告書提出予定日 2026年4月14日 配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 2026年8月期第2四半期（中間期）の業績（2025年9月1日～2026年2月28日）

(1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年8月期中間期	10,388	△38.6	△610	—	△813	—	△846	—
2025年8月期中間期	16,912	△20.6	△244	—	△469	—	△239	—

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年8月期中間期	△23.85	—
2025年8月期中間期	△7.36	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年8月期中間期	11,197	△389	△3.5
2025年8月期	11,994	496	3.8

(参考) 自己資本 2026年8月期中間期 △389百万円 2025年8月期 456百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年8月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年8月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年8月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年8月期の業績予想（2025年9月1日～2026年8月31日）

当社は、2025年11月14日付で株式会社ワールドとの間で株式交換契約を締結しております。本株式交換による当社の完全子会社化に伴い、2026年2月26日付で当社株式が東京証券取引所を上場廃止となったことを踏まえ、2026年8月期の業績予想は記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料 8 ページ「2. 中間財務諸表及び主な注記(4) 中間財務諸表に関する注記事項(中間財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2026年8月期中間期	35,540,591株	2025年8月期	35,540,591株
② 期末自己株式数	2026年8月期中間期	52,822株	2025年8月期	52,685株
③ 期中平均株式数(中間期)	2026年8月期中間期	35,487,893株	2025年8月期中間期	32,582,516株

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

当社は、2025年11月14日開催の取締役会において、株式会社ワールドを株式交換完全親会社、当社を株式交換完全子会社とする株式交換を行うことを決議し、同日付で株式交換契約を締結しております。また、2026年2月4日の臨時株主総会において本株式交換契約が承認可決されたことにより、2026年2月26日をもって上場廃止となりました。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況.....	2
(2) 当中間期の財政状態の概況.....	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等	3
2. 中間財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間貸借対照表	4
(2) 中間損益計算書	6
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 中間財務諸表に関する注記事項	8
(中間財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(重要な後発事象)	8

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間会計期間（2025年9月1日～2026年2月28日）における経営成績は、売上高は10,388百万円（前年同期比38.6%減）、営業損失が610百万円（前年同期は営業損失244百万円）、経常損失が813百万円（前年同期は経常損失469百万円）、中間純損失は846百万円（前年同期は239百万円の中間純損失）となりました。

当社は聖域なき構造改革を軸に2025年8月期を初年度とする5カ年の中期経営計画（2024年10月8日付公表）を策定しており、2年目にあたる当事業年度におきましては、基盤固めの継続による事業安定化と再成長への準備を両立させるフェーズとして、MDの抜本的見直しとワールドグループのリソースを活かした競争力あるPB開発に取り組み、PB（プライベートブランド）構成比の拡大による仕入原価率の改善や、サプライチェーン情報を共有し、売上総利益率の改善への取組みを推し進めてまいりました。

そのような事業環境の中、当中間会計期間におきましては、レディースを中心としたトレンド性の高い新作商品が支持を集めた他、価格帯の見直し等が奏功し、客数回復の兆しが見られ、実店舗の既存店客数は3カ月連続で前年実績を超える水準となるなど、一定の効果が顕在化しました。しかしながら、期間を通してトップスおよびグッズを中心に、テイストの偏りや端境期におけるファッション雑貨の展開不足など、品揃え面で課題が未だ多く、売上高は低調に推移し、計画は未達となりました。

利益面につきましては、売上総利益額は売上高の減少が影響し計画を下回る結果となりましたが、MDの抜本的な見直しやワールドグループのサプライチェーン情報の共有強化を通じて、PBの構成比拡大が計画通りに進捗したことや仕入原価率の改善を推進した結果、売上総利益率は52.1%（前年同期49.3%）となり、期初計画と同水準となりました。

また、中期経営計画における重点施策であるコスト構造改革に基づき、引き続き徹底したコスト削減に取り組み、販売費及び一般管理費は6,023百万円（前年同期比29.9%減）となりました。

以上の結果、営業損失は610百万円（前年同期は営業損失244百万円）、経常損失は株式交換等に関するアドバイザー費用など、営業外費用を225百万円計上したこともあり、813百万円（前年同期は経常損失469百万円）となりました。

最終損益につきましては、2024年8月期において事業構造改革における退店計画に伴い発生する損失を店舗閉鎖損失引当金として計上しておりましたが、店舗の退店確定に伴う店舗閉鎖損失引当金戻入額、新株予約権の期間満了による新株予約権戻入益等、特別利益を248百万円計上し、共用資産を含む固定資産の減損損失等、特別損失を116百万円計上したことにより、中間純損失は846百万円（前年同期は239百万円の中間純損失）となりました。

なお、店舗展開におきましては24店舗の退店により、当中間会計期間末店舗数は206店舗となりました。

(2) 当中間期の財政状態の概況

①資産、負債及び純資産の状況

資産

当中間会計期間末の資産合計は、前事業年度末に比べて797百万円減少し、11,197百万円となりました。

流動資産は、前事業年度末に比べて364百万円減少し、6,621百万円となりました。これは主に現金及び預金が308百万円、商品が279百万円それぞれ増加し、売掛金が291百万円減少したことによるものであります。

固定資産は、前事業年度末に比べて432百万円減少し、4,575百万円となりました。これは主に投資その他の資産が435百万円減少したことによるものであります。

負債

当中間会計期間末の負債合計は、前事業年度末に比べて88百万円増加し、11,586百万円となりました。

流動負債は、前事業年度末に比べて985百万円増加し、8,816百万円となりました。これは主に短期借入金が600百万円、資産除去債務（流動）が385百万円それぞれ減少し、1年内返済予定の長期借入金が2,000百万円増加したことによるものであります。

固定負債は、前事業年度末に比べて896百万円減少し、2,769百万円となりました。これは主に関係会社長期借入金が1,000百万円減少したことによるものであります。

純資産

当中間会計期間末の純資産合計は、前事業年度末に比べて886百万円減少し、△389百万円となり債務超過となりました。これは主に中間純損失を計上したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間末の現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前事業年度末に比べ308百万円増加し、887百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用した資金は184百万円となりました。これは主に、税引前中間純損失681百万円、店舗閉鎖損失引当金の減少269百万円があった一方で、減損損失112百万円、売上債権の減少291百万円、未収入金の減少216百万円があったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果得られた資金は93百万円となりました。これは主に、資産除去債務の履行による支出105百万円、リニューアル等に伴う有形固定資産の取得による支出42百万円があった一方で、退店に伴う敷金及び保証金の回収による収入264百万円があったことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果得られた資金は399百万円となりました。これは主に、長期借入金による収入1,000百万円と短期借入金の純減額600百万円があったことによるものであります。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は、2025年11月14日付で株式会社ワールドとの間で株式交換契約を締結しております。本株式交換による当社の完全子会社化に伴い、2026年2月26日付で当社株式が東京証券取引所を上場廃止となったことを踏まえ、2026年8月期の業績予想は記載しておりません。

（4）継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、前事業年度まで4期連続で営業損失、経常損失及び8期連続で当期純損失を計上し、当中間会計期間におきましても継続して営業損失610百万円、経常損失813百万円、中間純損失846百万円を計上し、当中間会計期間末の貸借対照表の純資産額は△389百万円となり、債務超過となりました。これらの事象又は状況が、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に該当しておりました。

これに対し、当社は、2025年11月14日付「株式会社ワールドによる株式会社ライトオンの完全子会社化に関する株式交換契約締結（簡易株式交換）のお知らせ」に記載のとおり、株式会社ワールドを株式交換完全親会社とし、当社を株式交換完全子会社とする株式交換契約を締結し、2026年2月4日開催の当社臨時株主総会において承認可決され、2026年3月1日を効力発生日とする株式交換によって同社の完全子会社になりました。また、本株式交換の効力発生前に先立ち、2025年12月1日には同社から1,000百万円の資金支援が実行されております。今後も同社からの支援のもと十分な資金調達が可能であることを鑑み、当面の資金繰りに関する懸念は解消しております。

このような状況を総合的に判断した結果、当中間会計期間末において、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせる事象又は状況が存在するものの、重要な不確実性は認められないものと判断しております。

引き続き、当社は、前事業年度を初年度とする中期経営計画において、持続的成長に向けた事業基盤の確立を目的とした聖域なきコスト構造改革に引き続き取り組んでまいります。

コスト構造改革の主な内容は以下のとおりです。

- ①不採算店舗の大規模な退店による収益性の向上。
- ②本部組織のスリム化と店舗人員最適化による人件費の削減。
- ③本部拠点の集約による賃借料及びその他の販売費及び一般管理費の削減。
- ④PB企画力の向上と生産背景見直しによる仕入原価率の低減。
- ⑤滞留在庫及び回転率の低い継続在庫の大幅圧縮による在庫水準の適正化。

中期経営計画の2年目となる当事業年度におきましては、中期経営計画のフェーズ2として、再成長への挑戦、事業安定化を掲げ、事業面におきましてはMD構成の抜本的見直しや仕入先の再構築、モノづくり体制の改革による既存事業の再成長、また、粗利率の継続的な向上や再現性ある仕組みづくり、持続可能な業務体制の構築や育成・教育プログラムの展開による持続的成長に向けた仕組みの整備、その他、信頼感の醸成やチャレンジ精神の奨励など、成長に向けた強い意志をもった人材の育成に努めてまいります。

2. 中間財務諸表及び主な注記

(1) 中間貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2025年8月31日)	当中間会計期間 (2026年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	578	887
売掛金	908	617
商品	4,541	4,821
その他	956	295
流動資産合計	6,986	6,621
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	0	0
工具、器具及び備品（純額）	0	0
その他（純額）	0	2
有形固定資産合計	0	3
無形固定資産		
ソフトウェア	0	0
ソフトウェア仮勘定	0	0
その他	0	0
無形固定資産合計	0	0
投資その他の資産		
敷金及び保証金	4,553	4,079
その他	460	499
貸倒引当金	△5	△5
投資その他の資産合計	5,008	4,572
固定資産合計	5,008	4,575
資産合計	11,994	11,197

(単位：百万円)

	前事業年度 (2025年8月31日)	当中間会計期間 (2026年2月28日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	961	1,065
電子記録債務	1,342	1,354
短期借入金	2,300	1,700
1年内返済予定の長期借入金	1,341	3,341
未払金	461	389
未払費用	420	493
未払法人税等	49	60
前受金	5	5
預り金	102	39
店舗閉鎖損失引当金	366	96
その他の引当金	—	107
資産除去債務	475	89
その他	3	72
流動負債合計	7,831	8,816
固定負債		
関係会社長期借入金	1,000	—
資産除去債務	2,478	2,567
その他	188	202
固定負債合計	3,666	2,769
負債合計	11,497	11,586
純資産の部		
株主資本		
資本金	100	100
資本剰余金	871	871
利益剰余金	△449	△1,295
自己株式	△66	△66
株主資本合計	455	△391
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1	1
評価・換算差額等合計	1	1
新株予約権	40	—
純資産合計	496	△389
負債純資産合計	11,994	11,197

(2) 中間損益計算書

(単位：百万円)

	前中間会計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)	当中間会計期間 (自 2025年9月1日 至 2026年2月28日)
売上高	16,912	10,388
売上原価	8,568	4,976
売上総利益	8,343	5,412
販売費及び一般管理費	8,587	6,023
営業損失(△)	△244	△610
営業外収益		
受取配当金	0	0
受取家賃	17	17
受取手数料	0	0
その他	3	4
営業外収益合計	21	22
営業外費用		
支払利息	24	56
支払手数料	201	135
賃貸費用	18	22
その他	2	11
営業外費用合計	246	225
経常損失(△)	△469	△813
特別利益		
固定資産売却益	2	—
新株予約権戻入益	13	40
店舗閉鎖損失引当金戻入額	213	190
受取保険金	—	17
債務免除益	249	—
特別利益合計	478	248
特別損失		
固定資産除却損	10	2
減損損失	187	112
契約解除損失引当金繰入額	14	—
その他	6	1
特別損失合計	218	116
税引前中間純損失(△)	△209	△681
法人税等	30	164
中間純損失(△)	△239	△846

(3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前中間会計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)	当中間会計期間 (自 2025年9月1日 至 2026年2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純損失 (△)	△209	△681
減価償却費	—	0
減損損失	187	112
有形固定資産売却損益 (△は益)	△2	—
固定資産除却損	10	2
保証金等の賃料相殺額	3	5
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△0	△0
買付契約評価引当金の増減額 (△は減少)	△80	—
契約解除損失引当金の増減額 (△は減少)	△421	—
店舗閉鎖損失引当金の増減額 (△は減少)	△870	△269
受取保険金	—	△17
受取利息及び受取配当金	△0	△0
債務免除益	△249	—
営業外支払手数料	201	135
支払利息	24	56
売上債権の増減額 (△は増加)	403	291
棚卸資産の増減額 (△は増加)	223	△279
未収入金の増減額 (△は増加)	242	216
仕入債務の増減額 (△は減少)	△28	88
未払金の増減額 (△は減少)	79	△97
未払費用の増減額 (△は減少)	△275	82
その他	△543	362
小計	△1,306	9
利息及び配当金の受取額	0	0
利息の支払額	△24	△65
保険金の受取額	—	17
営業外支払手数料の支払額	△201	△76
法人税等の支払額	△179	△138
法人税等の還付額	0	68
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,710	△184
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△131	△42
有形固定資産の売却による収入	2	—
無形固定資産の取得による支出	△37	△4
敷金及び保証金の差入による支出	△56	△7
敷金及び保証金の回収による収入	743	264
資産除去債務の履行による支出	△206	△105
その他	△6	△11
投資活動によるキャッシュ・フロー	305	93
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△650	△600
長期借入れによる収入	1,000	1,000
株式の発行による収入	650	—
その他	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	999	399
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△406	308
現金及び現金同等物の期首残高	955	578
現金及び現金同等物の中間期末残高	549	887

(4) 中間財務諸表に関する注記事項

(中間財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

(税金費用の計算)

税金費用については、当中間会計期間を含む事業年度の税引前当期純損益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純損益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

但し、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、税引前中間純損益に一時差異等に該当しない重要な差異を加減した上で、法定実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

当社は報告セグメントが単一であることから、記載を省略しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項は有りません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

(株式会社ワールドとの株式交換契約による完全子会社化)

当社は、2025年11月14日開催の当社および株式会社ワールド（以下「ワールド」という。）それぞれの取締役会決議に基づき、ワールドを株式交換完全親会社、当社を株式交換完全子会社とする株式交換（以下「本株式交換」という。）を行うことを決定し、同日付で両社間において株式交換契約を締結しました。

本株式交換は、2026年3月1日を効力発生日として実施されました。

なお、本株式交換の効力発生日に先立ち、当社の普通株式は、2026年2月26日付で株式会社東京証券取引所スタンダード市場において上場廃止となっております。

(1) 本株式交換の概要

① 株式交換完全親会社の名称および事業の内容

株式交換完全親会社の名称	株式会社ワールド
事業の内容	アパレル小売業

② 本株式交換の目的

現行の資本関係では十分になし得なかった当社における成長施策の推進、コーポレート機能の統合及び人材配置の最適化によるさらなる合理化等を通じた経営効率の向上並びに競争力の向上に資すると判断いたしました。

③ 本株式交換の効力発生日

2026年3月1日

④ 本株式交換の法的形式

本株式交換は、ワールドを株式交換完全親会社、当社を株式交換完全子会社とする株式交換です。なお、ワールドについては、会社法第796条第2項本文の規定に基づく簡易株式交換の手続により、株主総会の決議による承認を受けずに、当社については、2026年2月4日開催の臨時株主総会において本株式交換契約の承認を受けており、2026年3月1日を効力発生日として本株式交換を実施いたしました。

⑤ 結合後企業の名称

変更ありません。

(2) 交付する対価に関する事項

株式交換に係る割当の内容

	ワールド (株式交換完全親会社)	当社 (株式交換完全子会社)
本株式交換に係る割当比率	1	0.20
本株式交換により交付する株式数	ワールドの普通株式：3,422,562株	

(注) 当社は、本株式交換の株式交換比率の算定に当たり、公平性、妥当性を確保するため当社ならびにワールドから独立した第三者機関に株式交換比率の算定を依頼しています。

(新規借入)

ワールドグループではキャッシュマネジメントシステム（以下「CMS」といいます。）を利用した機動的な資金の相互融通により、子会社の資金繰りを効率的に管理しております。株式交換完全親会社となったワールドが、本新規借入により当社の資金繰りをワールドグループ一体として効率的に管理すべく、2026年3月1日付にてCMS契約を締結し、2026年3月31日付にて新規借入を実行いたしました。

また、2022年3月24日付で締結した三菱UFJ銀行をアレンジャーとするタームローン契約含め既存取引銀行との借入は2026年3月31日付で期日満了返済いたしました。

新規借入の概要

- | | |
|------------|----------------------|
| 1. 資金用途 | 運転資金 |
| 2. 借入先 | 株式会社ワールド |
| 3. 借入極度額 | 3,000百万円 |
| 4. 実行後借入総額 | 2,600百万円 |
| 5. 借入利率 | TIBOR+スプレッド |
| 6. 契約締結日 | 2026年3月1日 |
| 7. 借入実行日 | 2026年3月31日 |
| 8. 契約期間 | 2026年3月1日～2027年2月28日 |